

ハヤシ製作所

震災の直後からほとんど休まずこの地で操業してきました。それができたのは、社員のやる気・熱意・情熱、村の支援・協力、そして被災地を想う皆様のような人・団体の応援・励ましがあったからです。お力をいただきながら、これからも一企業として、復興に貢献していきたいと思っています。



ハヤシ製作所
林武志 社長

「ありがとう弁当」謹呈式

名前も顔も知らない私達に力を与えてくださる本当にありがたいと思う

新宿調理師専門学校



新宿調理師専門学校
上神田梅雄 校長

飯舘村のことを知り感動と感謝がこみあげた「ありがとう」と伝え応援したい

お弁当をつくらせていただいたのは、調理師ではなく「調理師のタマゴ」達です。おもてなしの気持ちを表す料理だから、無添加でいくよ…と言ってつくりました。無添加だと腐敗が早く進みますから、出発前まで、徹夜で仕上げてまいりました。家族の食卓で、ぜひ家族の笑顔を咲かせてください。



10月5日、新宿調理師専門学校（東京都）で学ぶ生徒37人と職員6人を乗せたバスが、飯舘村に到着しました。被災地支援を続ける同校から「ありがとう弁当」が届けられるのは、「昨年の「いいたてホーム」、昨年の村役場に続き、三年連続。前日から仕込みを行い、鮮度を保つために盛り込みは夜から行い、バスの出発は当日の早朝4時前だったそうです。」
一方、精密機器の部品等を製造するハヤシ製作所は、全村避難中も村内で操業を続けた企業の一つ。避難指示解除後の雇用の場としても地域に貢献しています。「会社が苦労した訳ではない。社員二人ひとりが苦労したのです」と林社長。「通勤に少しでもゆとりを」と仕出し弁当を無料で頼めるようにしたり（現在は半額補助）、食堂の備品購入に社員の希望を取り入れたりと心をくだいてきました。「初めて会う人から受け取る、今までとはまた違ったありがたい気持ちを感じます」。72人の社員も感激の面持ちで弁当を受け取り、生徒の皆さんに感謝を伝えていました。「家族で大切に味わいます」。

飯舘中学校



「おいしい」「ありがとう」と言葉をかけられ感動ですこの笑顔に出会えてよかった

野菜を切ったり、盛り付けをしたり、アドバイスを受けながら、中学生も調理を頑張りました。専門学校の皆さんにとっても、外部の学校に出向いて一緒に調理する機会はまれだそう。「貴重な機会と思って参加しました。避難が終わり皆さんで一から頑張っているんですね。来ることができてよかったです」。



響き合う つながる力
村をめぐる 人々の
ネットワークに注目！



新宿調理師専門学校の皆さんは、続いて飯舘中学校に向かいました。専門学校の名物メニュー、秘伝の「海軍カレー」を、中学生と一緒につくるためです。中学生は同専門学校について事前に学習し、「働くことの意味も学びたい」と活動に臨みました。当日も、礼儀正しく、てきぱきと作業をこなす専門学校生の姿が、中学生の心をとらえていました。食事の準備が整うと、小学生もランチルームにやつて来て、全員で会食。「スパイスが効いていておいしい」「将来はどんな仕事をするのですか」と会話もはずんでいました。
食事の後には、専門学校の皆さんを見習い、片付けや清掃に励む中学生の姿がありました。「皆さんの仕事を見て、こうして自分から動くことができるんですね」と感心する先生もありました。
また一方には「自分の成長を感じることができた」と語る専門学校生も。「普段は触れ合えない人との食事。すごく楽しかった。つくることが、食べることはやっぱり楽しい。中学生の皆さんにも分かってもらえたらうれしいです」。



この日のランチ 海軍カレー

